



2017年3月29日

各位

会社名 マックスバリュ九州株式会社
 代表者名 代表取締役社長 佐々木 勉
 (コード番号: 3171 JASDAQ)
 問合せ先 管理統括部長 篠崎 岳
 (電話番号 092-433-1228)
 当社の親会社名 イオン株式会社
 代表者名 取締役兼代表執行役社長
 岡田 元也
 (コード番号: 8267 東証第1部)

業績予想の修正ならびに特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2016年10月5日に公表した2017年2月期通期(2016年3月1日～2017年2月28日)の業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

これは、直近に至るまでの業績動向を勘案するとともに、2017年2月期第4四半期会計期間(2016年12月1日～2017年2月28日)において、特別損失を計上する見通しとなったことによるものです。

なお、当社は2016年9月1日に子会社である株式会社クリエイトを吸収合併したことで連結子会社がなくなったため、2017年2月期第3四半期より個別決算による開示へ移行いたしましたしております。

記

1. 業績予想の修正

2017年2月期通期個別業績予想数値の修正(2016年3月1日～2017年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円/銭
前回発表予想(A)	166,000	2,150	2,200	600	79.65
今回修正予想(B)	170,000	2,620	2,650	1,050	139.39
増減額(B-A)	+4,000	+470	+450	+450	
増減率(%)	+2.4	+21.8	+20.4	+75.0	
(ご参考) 前年同期実績	155,037	2,054	2,131	474	63.06

2. 業績予想修正の理由

直近の業績動向について

2016年4月に発生した熊本地震により、熊本県と大分県の一部店舗を中心として、店舗建物や商品等に被害が発生するとともに、当社従業員においても居住する家屋損

壊等の被害が発生しております。このため、店舗の一時的な営業中止や営業時間の短縮、交通網の寸断影響を受けた物流の混乱による商品入荷の遅延等が発生いたしました。しかしながら、全社一丸となり店舗の営業再開に取り組み、本震発生約 2 週間後の 5 月初頭には、被災した店舗全店の営業再開にこぎつけました。この対応ができたことにより、第 2 四半期以降についても、熊本地区を中心として、客数が前年を超過し、結果として売上高は計画を上回り堅調に推移いたしました。

また、中長期の計画に基づき、お客さまの変化に呼応するために、店舗スタイルの刷新を目指し、「ライフスタイル提案型マックスバリュ」、「都市型マックスバリュエクスプレス」、生鮮食品の強みを活かす New「ザ・ビッグ」への店舗改装を精力的に推進いたしました。既存店においても、ヘルス&ウェルネス関連商品の拡充や、地元銘柄和牛の導入等、お客さまのニーズ変化に合わせた品ぞろえの見直しを随時行ってまいりました。

さらに、水道光熱費が低水準で推移したことに加えて、WAON ポイントカード新規導入に伴う販促体系の見直しや、採用難に対応するための採用方法の見直しや働き方を変える施策実行による総労働時間の効率化推進等により、販管費の効率化を進めてまいりました。

これらの取り組みを行ったことにより、計画を上回る業績を収めることができるものと判断しております。

特別損失の計上について

固定資産の減損に係る会計基準に従い、店舗の減損損失として 286 百万円を新たに計上いたします。この特別損失計上により、2017 年 2 月期通期においては、特別損失 1,138 百万円を計上する見通しです。

上記の通り、特別損失の計上を行いましたものの、直近までの業績動向が計画を上回るペースで堅調に推移したことにより、通期業績といたしましては、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも前回(2016 年 10 月 5 日)発表の業績予想を超過する見通しとなりました。このため、業績見通しの上方修正を行います。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる結果となる場合があります。

以 上